

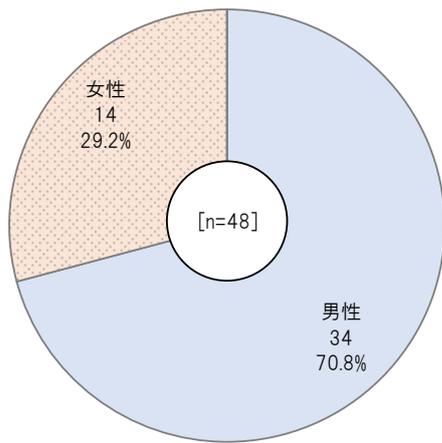
**「第2期まち・ひと・しごと創生益田市総合戦略」
策定に関するアンケート調査
報告書**

令和2年6月
益田市

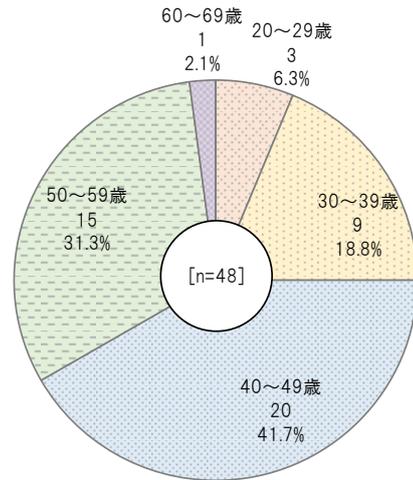
| 調査目的 | 地方創生・人口減少対策のために重要と思う施策を聞き、第2期総合戦略策定の検討資料とするために実施。 | |
|------|--|-----|
| 調査対象 | 各種関係団体、市民 | |
| 調査方法 | 郵送配布・回収、インターネットによる回答 | |
| 実施期間 | 令和2年(2020年)6月12日～令和2年(2020年)6月26日 | |
| 回答数 | 郵送配布数:19票 郵送回収数:6票、インターネット回答数:42通 | |
| 問 | 設問 | ページ |
| 1 | あなたの性別について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。 | 1 |
| 2 | あなたの年齢について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。 | 1 |
| 3 | あなたの主な職業について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。 | 1 |
| 4 | 今後5年間において、あなたが重要だと思う取組内容について、基本目標ごとに3つまで○を付けてください。 | 2 |
| ① | 「基本目標1 定住の基盤となるしごとをつくる」について | 2 |
| ② | 「基本目標2 結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について | 3 |
| ③ | 「基本目標3 益田に回帰・流入・定着するひとの流れをつくる」について | 4 |
| ④ | 「基本目標4 地域にあるものを活かし、安心して暮らせまちをつくる」について | 5 |
| 5 | 現在の取組を踏まえ、次期総合戦略においても施策を推進する「ひと」を継続的に育てるために必要なことは何だと思えますか。 | 6 |
| 6 | 益田市において、上記問4の基本目標に向けた取組を今後も推進していくためには、どのような技術やしきみが必要だと思えますか。 | 8 |
| 7 | 人口減少に歯止めをかけるためには、上記問4に掲載した取組内容の他に、どのようなことが必要だと思えますか。 | 10 |
| 8 | 益田市として、今後どのような政策に重点を置いて取組むべきだと思えますか。 | 11 |

あなた（回答者）ご自身についておたずねします。

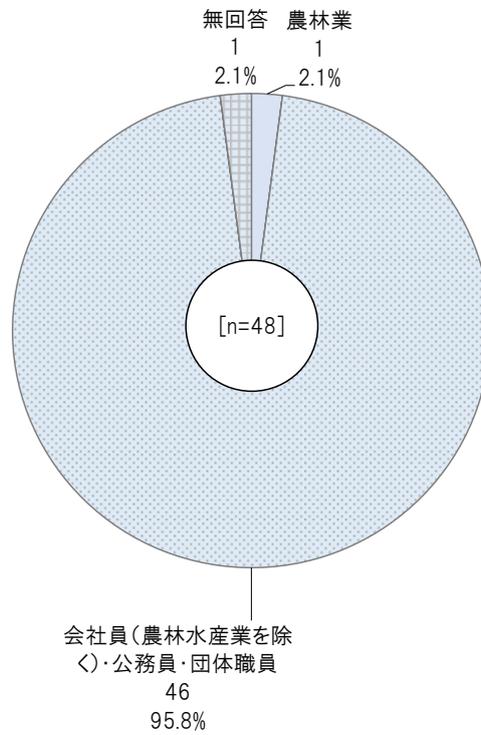
問1. 性別



問2. 年齢



問3. 職業

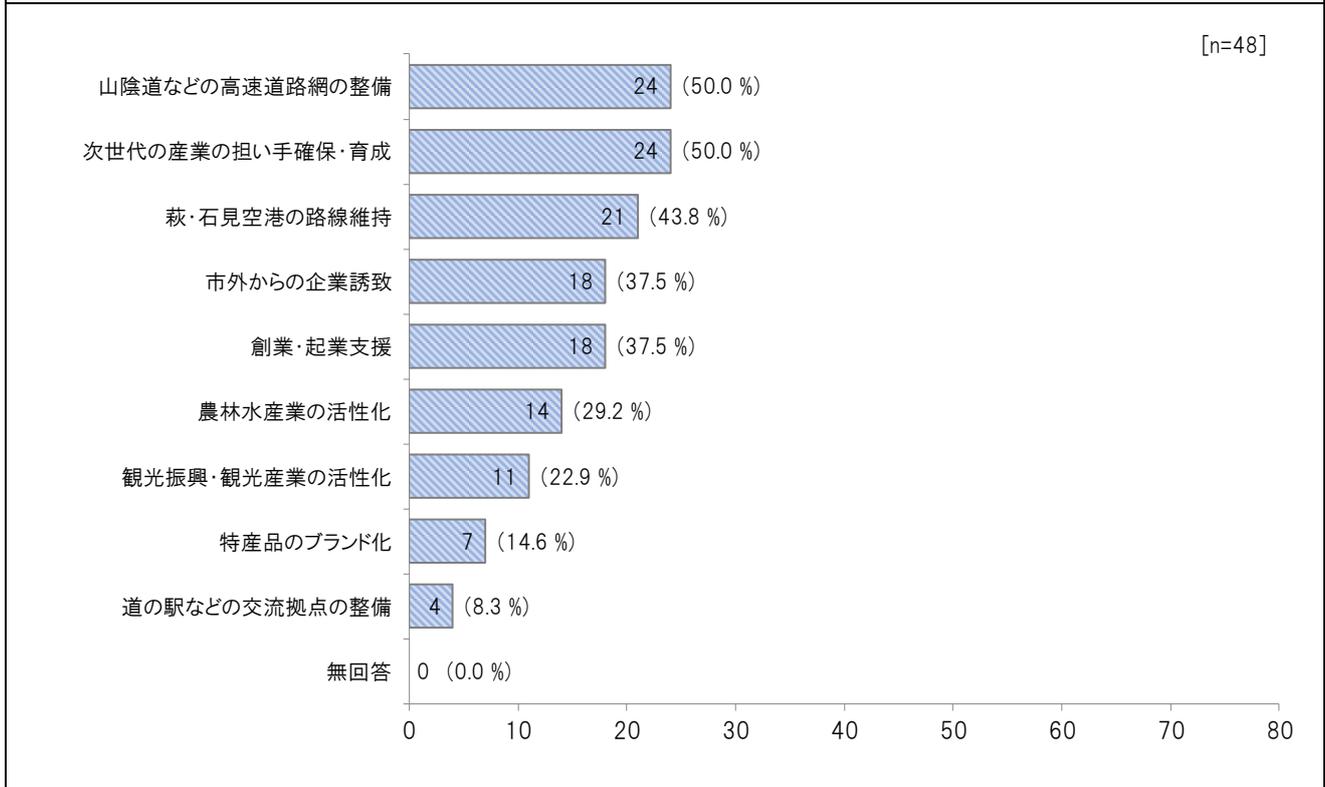


問 4. 現行の総合戦略では、次の 4 つの基本目標を設定し、取組を進めてきました。
 今後 5 年間に於いて、あなたが重要だと思う取組内容について、基本目標ごとに 3 つまで○を付けてください。

①基本目標 1 定住の基盤となるしごとをつくる

特に若い世代が、高校卒業後に地元で就職したり、進学等によって転出した後も再び益田に帰り地域で活躍できるよう、多様な職と魅力のある雇用の場をつくる取組を進めています。

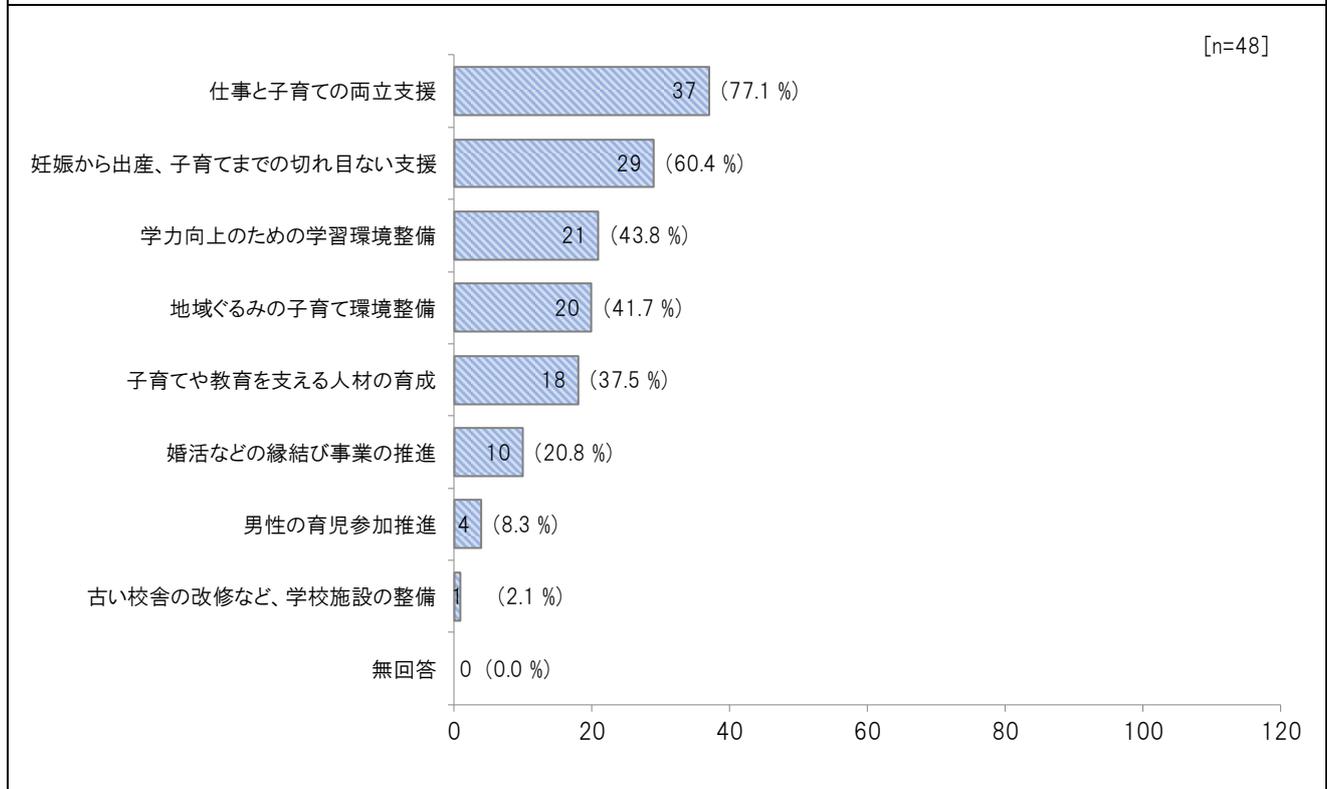
- 「山陰道などの高速道路網の整備」⇒基本目標 1 の(7)、「次世代の産業の担い手確保・育成」⇒基本目標 1 の(9)が最も高く、次いで「萩・石見空港の路線維持」⇒基本目標 1 の(7)が高い。



②基本目標2 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

出生率の向上や出生数の増加のために、結婚・妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援と、子どもを安心して産み育てられる環境を向上させる取組を進めています。

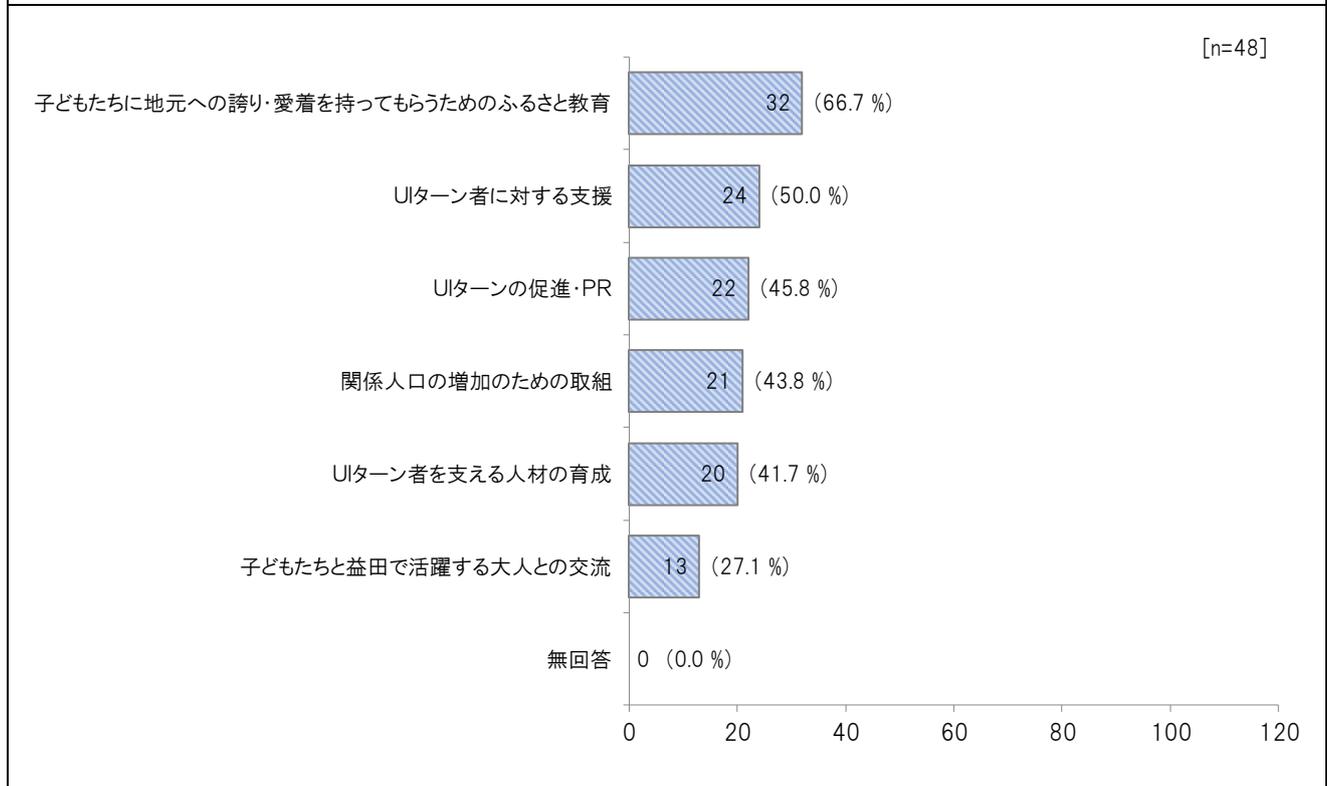
- 「仕事と子育ての両立支援」⇒基本目標2の(2)が最も高く、次いで「妊娠から出産、子育てまでの切れ目ない支援」⇒基本目標2の(3)が高い。



③基本目標3 益田に回帰・流入・定着するひとの流れをつくる

益田の豊かな自然環境や、安心して安全な生活環境、市外から来た人を温かく迎え入れる土地柄など、益田の魅力を発信し、UIターンや関係人口※1の増加を促進する取組を進めています。

- 「子どもたちに地元への誇り・愛着を持ってもらうためのふるさと教育」⇒基本目標3の(4)が最も高く、次いで「UIターン者に対する支援」⇒基本目標3の(1)~(3)が高い。

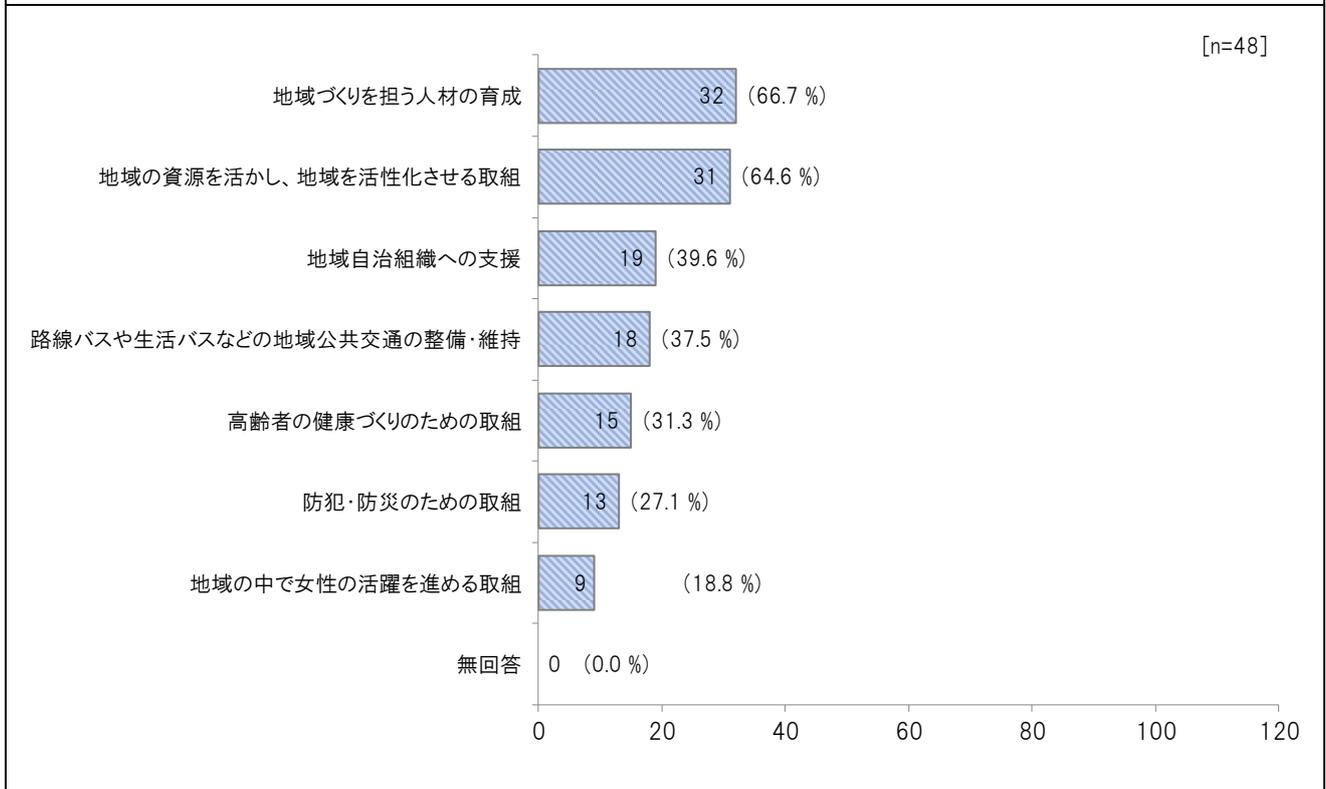


※1 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人を指す言葉。

④基本目標4 地域にあるものを活かし、安心して暮らせまちをつくる

それぞれの地域で、市民と行政が一緒になって、人と人のつながりを大切にした地域の自治力向上や、地域にあるものを活かした魅力づくりを促進する取組を進めています。

- 「地域づくりを担う人材の育成」⇒基本目標4の(5)が最も高く、次いで「地域の資源を活かし、地域を活性化させる取組」⇒基本目標4の(1)が高い。



問 5. 益田市では総合戦略を実行するにあたり、各施策を担う人材、そして幅広く将来の地域を担う人材の育成が不可欠であるとの考えから、上記問4の4つ全ての基本目標における施策に人材育成を盛り込み、そのための協働体制の構築と取組を推進しています。益田市が目指す「ひと」は、以下のとおりです。

- ・未来の担い手 将来の益田市を支えるため、自らの可能性を広げることのできるひと。
- ・しごとの担い手 しごとを継続発展させるひと。しごとを創りだせるひと。
- ・地域づくりの担い手 地域のひとと協力し、地域を支えるひと。地域の資源を活かせるひと。

現在の取組を踏まえ、次期総合戦略においても施策を推進する「ひと」を継続的に育てるために必要なことは何だと思いませんか。

■自由記述内容

| 年齢 | 回答内容 |
|---------------|--|
| ～39歳 (2と3) | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域のリーダーを養成するための研修会の開催・研修会によるスキルの向上と人脈の拡大をはかる ✓ 個人「ひと」の安定した収入。「ひと」を育てるということは、本人に向上心がないと成り立たないと思います。個人の問題ではあるが、そもそも安定した収入があつてこそ、地域活動をしてみようとかになるのでは...企業誘致なども一体的に進める必要性を感じる ✓ 人材育成ができるひとを育てること。現在の「ひとづくり」の取組を経験した人が、将来、次の世代の「ひとづくり」に貢献する、世代を超えた連鎖が生まれるといいと思う。 ✓ 人と人とを繋ぎ、学びあいながら、色々な刺激をお互いに与え続けることで成長できる。そのために、そういった場や機会を提供する ✓ 後藤新平の「財を残すは下、事業を残すは中、人を残すは上」という名言には「されど財なくんば事業は興せず、事業なくんば人は育たず」という続きがある。「ひとが育つまち」という理念は立派だが、財はともかく、事業や方法論はあるのか？ ✓ 一定数存在する「否定派」の意識改革 ✓ 将来ビジョンを作成し、目標に向けた支援 |
| 40～49歳 (4) | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一般市民は益田市の施策をわかっていない人が多い。行政が良かれと思ってやっていることを客観的にみているだけ。もう少し市民と行政の距離を縮め、ますます施策に参画できる取り組みが必要ではないか ✓ 精神論ではなく実際に、若者が働きたいと思える企業、給料面、雇用面が安定して、うまくアピール次第で、若者が集まるとおもう。そうした中には、将来を担える人も必ずいる ✓ 幅広い人に活躍の場を用意する。 ✓ 住民目線に立った、信頼をおける人柄 ✓ いったん益田を離れても、益田に回帰する意識づけを継続する。 ✓ 多角的に物事を見ることのできる視点作り。簡単にあきらめない気持ち作り。逆転の発想ができる。(ピンチはチャンスと考えられるひと) ✓ 三つ子の魂百まで。まずは家庭での子育てがベースとなる。安心して子どもを育てられるよう、家庭や親への支援が大切だと思う。 ✓ 子どもから大人まで各世代の学習プログラムを構築し、定期健診のように”学び”に触れる機会を創出する。 ✓ 地元ではない視点から地元の地域資源の価値を評価できる人材の育成 ✓ 人材の確保。育成する仕組みがあつても、そもそも人がいないと何にもならない。 ✓ 担い手に任せきりにしない体制 ✓ 受け入れる側(年配の方)の意識改革 |
| 50歳～ (5と6) | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「よそ者、若者、バカ者と言われる様に若い人を中心に地元出身者だけに捉われることなく自由な発想、アイデアを尊重して、進めていくことが大事だと思います ✓ 青年会ギ所、商工青年部と県・市・町の若干職員との勉強会(まちづくりが出来るひとづくり) ✓ 子どもたちへのふるさと教育(小・中・高、各階段に応じた内容で、継続的な取り組み)が必要だと思います。 |

- ✓ 子どもの頃から豊かな発想力を養える環境を作ることで「ひと」は自然と育つ
- ✓ 都市部へ効果的に益田の観光、産業資源をアピールできるシステム
- ✓ 人材育成には、市民の理解と意識改革が必要
- ✓ 地域の歴史や文化、そして親を大切にすることを育て、いずれは故郷へ帰って地域を担おうと志す人材を育てる。
- ✓ 若者がチャレンジできると思ってもらえるよう支援すること。PR すること。
- ✓ 行政におけるキーマン(人づくり推進監)
- ✓ ひとは、ひとでしか育成することができないと思うので、人と人をつなぐための仕掛けが欠かせないと思います。
- ✓ 教育の無償化（一定の生活費を給付し、授業料等について無償化する。）
- ✓ 若い人が積極的に残ろうと思う動機づけになるもの。神楽をやりたいから残る・戻ってくる人が一定数いると聞きました。そういったものが他にも種々あると良いと考えています。
- ✓ これまで解決できなかった課題解決のために、地域外からの人材を求めるのは大切なこと。益田の人は、新しい人はすごく歓迎される。でも歓迎され続けられないのが現状。地域内の人材を見つける目も必要と感じる。地域外人よりもそこで生活する人の方が地域で在り続けることができると思う。ネガティブではありますが。
- ✓ 「ひと」を育てる「ひと」の発掘とその「ひと」の支援

問 6. 近年、情報通信分野などにおいて新たな技術が発展し、新技術をまちづくりに活かす取組が全国で行われています。益田市において、上記問4の基本目標に向けた取組を今後も推進していくためには、どのような技術やしくみが必要だと思いますか。

例) ・子育てに関する問い合わせに、AIを組み込んだ対話式サービス(チャットボット)を活用し、休日や夜間でも気軽に問い合わせができるようにする。

- ・農業の担い手が少ない地域で、田畑に取り付けたセンサーで温度や湿度などを計測し、農業の効率化を図る。
- ・学校や公民館にタブレットなどを配布し、家庭の環境や世代に関わらず誰もが気軽にインターネットを通してつながりが持てる環境を整備する。
- ・ロボットや自動運転などの技術に対応できるよう、新たなルール(条例・規則など)の制定や規制緩和をする。

■自由記述内容

| 年齢 | 回答内容 |
|--------|--|
| ～39歳 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ ICT教育の早期導入に向けた環境整備 ✓ 高速インターネット環境の整備 ✓ 新技術の活用については、行政よりも民間の方が積極的だったり、早くから対応できる体制を整えていたりするのではと思う。官民連携で推進できる体制づくりが必要。 ✓ 技術よりもそれを使う人ではないでしょうか。 ✓ 新技術の導入を「人の働く場所がなくなる」というような理由で嫌がる人達の意識改革 |
| 40～49歳 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 益田の景観を守るためには、田畑の維持、草刈が必要不可欠である。しかし、人手不足により、ままならないのが現状である。AIやロボット、GPSなど駆使して維持すれば、中山間地域の暮らし、イメージがとてもしなものになると思う ✓ 益田市内で子育て相談、不安な事など、経験豊かな市民に気軽に相談できるチャットなどは、若者にもいいし、年配の人も相談される事で生きがいを感じる ✓ Wi-Fi環境の整備、幅広い世代への情報リテラシー教育 ✓ 学校や公民館にタブレットなどを配布し、家庭の環境や世代に関わらず誰もが気軽にインターネットを通してつながりが持てる環境を整備する。 ✓ インターネット環境整備の充実。 ✓ 不足する人手を補う、IT技術の開発、活用の支援。 ✓ ロボットや自動運転などの技術に対応できるよう、新たなルール(条例・規則など)の制定や規制緩和をする。 ✓ 人手のかかる分野の自動化 ✓ 緊急時、災害時などにリアルタイムに必要な情報が入手できる仕組み。 ✓ フリーWi-Fiの整備 ・市の施設等の予約システム ・市の税金や手数料等のスマート決済 ✓ 農業の担い手が少ない地域で、田畑に取り付けたセンサーで温度や湿度などを計測し、農業の効率化を図る。 ✓ 新しい技術が生まれ時に、それを積極的に活用できるような仕組みが必要。今まで通りのやり方を変えることへの不安などを解消できるようにする(例えば、何らかの補償をするなど)。 ✓ 農業の効率化を図る ✓ ネット環境の早期整備 |
| 50歳～ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ AIの取り込み ✓ 都市部及び海外からの週末、短期ホームステイ受け入れ。益田在住のアスリートとの合同練習やアーティスト同士の共同創作活動の提案など、他地域と交流だけでなく産み出す過程をネット配信 ✓ 誰もが、自宅で安心して暮らし続けられる環境整備が必要 ✓ 農業の効率化 |

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">✓ ICT、IoT を活用した働き方改革。新産業の創出。✓ 子育てに関する問い合わせに、AI を組み込んだ対話式サービス(チャットボット)を活用し、休日や夜間でも気軽に問い合わせができるようにする。✓ 役所に出向かなくても、ある程度の申請が完結できるようなオンライン申請を実用化する。利用者も対応する側も負担が軽減される。✓ 人と人の繋がりを形成・強化していく視点で、情報の新技術を活用してほしい。✓ 益田市のマンパワーを考えると、あれこれ手を出すより、今手掛けているIoT関連のものを突き詰めるのがいいのではないのでしょうか。✓ 新技術に最も遠いと思われる人が親しめる入口づくり。必ず人が関われる技術の導入✓ 高齢者の見守り・支援に、対話式ロボットを活用 |
|--|--|

問 7. 益田市では人口が減少傾向にあり、今後もさらに減少していくことが予想されます。人口減少に歯止めをかけるためには、上記問4に掲載した取組内容の他に、どのようなことが必要だと思いますか。

■自由記述内容

| 年齢 | 回答内容 |
|---------|---|
| ～39 歳 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ レジャー施設の整備・休日等に遊ぶ施設がなく、市外(山口・広島)に外出する方が多いのでは！ ✓ 企業誘致や産業振興、「カタリバ」の取組みなどで、一定程度は歯止めがかかると思いますが、大学等がない益田市では、減少が好転することはありません。一方では人口減少を受け止め、その社会の中で何を残していくのかの議論も必要 ✓ これまで取組んできたことは、人口の増加という形ですぐに効果が表れるわけではないと思う。この5年間で目に見えた効果が出ていないからといって、施策が間違っていたということにはならないと思うので、ひとつひとつ丁寧に検証しながら、より効果的な方法を見つけていく、という感じでしょうか。行政は数年で担当が変わるし、トップも変わる。関わる人が変わったとしても、長いスパンでの検証と評価ができる仕組みが必要と思う。 ✓ 人口減少になかなか歯止めをかけるのは難しい。なので、今いる人たちが豊かに暮らせるような取り組みを行い、住みやすい町にすることが大事なのかと ✓ かつての大谷町長のように、積極的な問題提起をしてもよいのではないのでしょうか。 ✓ 子どもたちが、将来戻ってきたくなるような街づくり。(重複してる?) ✓ どの市町村においても同じような政策が展開されていることから、全国に先駆けした目玉となる取り組みが必要と思う。また、益田のPR戦略(例:コマーシャルを流すなど)を図り、帰りたくなる来たくなるような仕掛けが必要と思う。 |
| 40～49 歳 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 益田の食材の付加価値を高めるために、専門機関と連携し、加工品製造分野に力を入れ、域内経済循環の向上を図る。・益田の自然環境の良さと光ファイバー環境の優位性を活かし、IT事業者等の誘致やワーケーション利用の推進など新しい生活様式に即した益田ライフを創出する。 ✓ 市外からの企業誘致 ✓ 他のことは思いつきません。 ✓ UI ターン促進・子育て支援・安心できる医療体制・農業(兼業でも)のしやすいまち(自給自足による食糧費の抑制(減収補填)、地域内消費の推進による経済活性化) ✓ 人口増加に向けた取り組みよりも、人口減少を見据えた施策の推進も結果的に効果があるのではないか ✓ コンパクトシティ化 専門学校や大学等の誘致 |
| 50 歳～ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 流出を防ぐこと(転入者を求めるのではなく)自分が地域などに必要と感ずることができれば出ていかない(地域という大きな枠でなくても家族などの枠でも) ✓ ふるさと教育の更なる推進 |

問 8. 益田市として、今後どのような政策に重点を置いて取り組むべきだと思いますか。

■自由記述内容

| 年齢 | 回答内容 |
|---------|---|
| ~39 歳 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 若い世代が働く場・遊ぶ場を整備する。高齢化社会を向える中、若い方が魅力に感じる街づくりが必要と考える⇒基本目標 1 ✓ 子育て、教育環境の充実 高齢者支援(中山間地に取り残された独居の方等の支援など)⇒基本目標 2、4 ✓ 全国的に人口が減っている中なので、益田市の現在の出生率の高さを維持できるよう、子育て支援に重点を置くべきと思う。⇒基本目標 2 ✓ 現状の施策を継続していく ✓ 益田市は東京から遠く離れていることは不利ですが、どこにもないような自然と歴史があり、萩・石見空港、山陰本線・山口線、グラントワ・万葉公園といったインフラなど、地域資源には恵まれていると思います。しかし、これらを有効に活かさないばかりか、お荷物にしてしまっている。あらためて地域の資源にしっかりと目を向け、これらを有効に使う方法を考えるべきだと思います。⇒基本目標 4 ✓ 未来と世界を見据えた新たな産業の実証フィールド⇒基本目標 1 ✓ 将来の益田市を担う子どもたちへの支援・持続可能な地域づくり・PR 戦略⇒基本目標 3 |
| 40~49 歳 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ とにかく子育て世代が暮らしやすくなるような政策を！！仕事、子育て、教育含めて⇒基本目標 2 ✓ 小さい子供が遊ぶ場所は、イズミのゲームセンターか、万葉公園くらい。遊ぶ場所がないから、県外まで出て遊びそこでお金が落ちる。アスレチック、雨の日の体を動かして遊べるアミューズメント施設、映画館などがあれば益田市内でお金も落ちる。活気も出てくる。大きなお金が動くかもだが、思いきった政策をして、行けば良い。⇒基本目標 1 ✓ 事業創出の支援、多様な形態の事業への支援⇒基本目標 1 ✓ 短期的でない、長期的な視点にたった地道な努力 ✓ 若者の雇用を確保する(多くの若者が希望する職業につける幅広い職種整備)。⇒基本目標 1 ✓ これからも自然減による人口の減少が避けられない状況の中、地域の産業や農業の維持に必要なもの、そうではないものの取捨選択。⇒基本目標 1 ✓ 地域の活性化 ✓ 地元を離れた若者が帰ってこられるように、雇用の場の確保が重要⇒基本目標 1 ✓ チャレンジ人材がチャンスをつかみ、背中をしっかりと押さえていけるような伴走支援型の産業支援⇒基本目標 1 ✓ 市外からの企業誘致⇒基本目標 1 ✓ 高齢者対策。生産年齢人口を増やすのは困難。高齢者への対策を進めることで、高齢者人口が増加し、働く場所が増える。上記は一例だが、何かに特化していく方が、面白いと思う。 ✓ UI ターン促進・子育て支援・安心できる医療体制・農業(兼業でも)のしやすいまち(自給自足による食糧費の抑制(減収補填)、地域内消費の推進による経済活性化)⇒基本目標 1、2、3 ✓ 高齢化により地域の維持が困難になっている現状を踏まえ、除草や河川浄化等への適切な支援策を講ずる⇒基本目標 4 ✓ 住み続けたいと思える街にするための魅力を定める ✓ 働く場の確保(若者の定住策。生産年齢人口を増加しなければ、人口増加につながらない)⇒基本目標 1 |
| 50 歳~ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ "益田市"のブランディング。市民にとってわかりやすいシンプルなゴールを設定し、進めて欲しい ✓ 「まち・ひと・しごと」→「しごと・ひと・まち」まずは仕事、仕事のないところに人は集まらない。人の集まらないところに街は出来ない。「しごと・産業」に重点を置くべき。⇒基本目標 1 ✓ 益田市に転入して、様々な場面で益田の人の親切さを感じました。これは大きな財産だ |

と思います。Uターン者受け入れの基盤があると思いますので、Uターン者の増加の為の取り組みを行っていくと良いと思います。テレワークに関しては、大都市部とのアクセスも確保すべきだと思いますので、萩・石見空港の路線維持も重点だと思います。⇒基本目標 3、1

- ✓ 少子高齢化が進むことを止めることは出来ないと思われるので、福祉関係に力を入れてはどうか⇒基本目標 4
- ✓ 中国地方内の市町村で互いにニーズを交換できるシステムの構築。益田だけでは大したことはできない。
- ✓ 少子高齢化が進行する中で、地域を支えている人材が不足(減少)してきており、地域のまとめ役などの人材の育成・確保に取り組む必要があると感じている。人口減少を食い止め、若者が定住できる施策が重要であると考え。⇒基本目標 3、4
- ✓ 住み慣れた場所で、住み続けられる環境整備、仕組みづくり⇒基本目標 4
- ✓ 子育てしやすいまちづくり⇒基本目標 2
- ✓ 地域の大人と子供との対話の促進、若者のチャレンジ支援。⇒基本目標 3
- ✓ 「中世の歴史」でのまちづくりは、事例も少なく、益田市の特徴や魅力を伝えるには、日本遺産認定が絶好のタイミングだと思います。これを活かせるよう、関係機関との協働によるまちづくりが必要と考えます。⇒基本目標 1
- ✓ 出身者が帰ってくる又は出て行かない。安心して産み育てられ、安全に生活でき、安らかに生涯を全うできる
- ✓ 「高津川」のロケ地巡礼のような、ソフト的なものの展開を期待していたので、新型コロナで残念な状況です。答えにならずすみません。
- ✓ 物心ともに今を大切にす

※関連する基本目標は、集計者側で記載。記載のない意見は、全般に関わるものと判断した。